

名 刺



名前 JYM39(じえい わい えむ さんじゅう きゅう)

職業 地方公務員です。

日常的な関わりが深い近隣の市町村の若手・中堅職員が、この圏域における課題や将来目指すべき方向性を考えるため、市町村間の情報共有や有識者による講演を受け、実践・実験を通じて、新たな連携の可能性を研究しています。

ワーキングを年4回程度行い、そこで企画した取り組みをテストプロジェクトとして実施しています。

○「JYM39」とは、ワーキンググループの名称。
意味は、

J:自治体連携による

Y:夢のある

M:まちづくりを

39:39市町村で一緒に！

【参加自治体】39市町村（27市11町1村）

愛西市、阿久比町、あま市、一宮市、稲沢市、犬山市、岩倉市、大口町、大治町、大府市、尾張旭市、春日井市、蟹江町、刈谷市、北名古屋市、清須市、江南市、小牧市、瀬戸市、武豊町、知多市、津島市、東海市、東郷町、常滑市、飛島村、豊明市、豊田市、豊山町、長久手市、名古屋市、日進市、半田市、東浦町、扶桑町、南知多町、美浜町、みよし市、弥富市（50音順）



《名古屋市近隣市町村長懇談会》

- 名古屋市では、昭和61年度から年1回、日常的な関わりが深い近隣の市町村と、相互理解を深め、地域間の相互協力、連携活動を進めるために、市町村長による懇談会を開催しています。
- 参加市町村は、全39市町村（27市11町1村）です。

《広域連携に関する研究会》

- 平成23年11月から、将来の広域連携の課題を整理するとともに、その実現可能性を検討することを目的として、課長級職員による「広域連携に関する研究会」を設置し、年3から4回開催しています。

《広域連携に関する研究会ワーキンググループ》

- 近隣市町村との広域連携の取り組みの一環として、平成26年10月から圏域の自治体間のネットワーク構築と人材育成を視野に、「広域連携に関する研究会」の下に39市町村の若手・中堅職員が参加するワーキンググループを起ち上げました。
- ワーキンググループでは、この圏域における課題や将来目指すべき方向性を考えるため、ワークショップ形式を中心とした意見交換や、有識者からのヒアリングなどを行い、平成27年5月までに6回のワーキングを開催し、取りまとめた結果を平成27年度の近隣市町村長懇談会において報告しました。

【報告書】 <http://www.city.nagoya.jp/somu/cmsfiles/contents/0000010/10055/wg.pdf>

- 近隣市町村長懇談会での発表を経て、ワーキンググループを市町村間の情報共有や有識者による講演を受け、実践・実験を通じて、新たな連携の可能性を研究していく場としました。ワーキングを年4回程度行い、そこで企画した取り組みをテストプロジェクトとして実施しています。

JYM39の取組



JYM39 Presentation



自治体の枠を超え、圏域の過去・現状を見つめ、未来に向かって、何が 필요한のか。

「真剣に」「熱く」、そして「楽しく」議論を行いました。

その議論を通じて、見えてきたものがあります。

この圏域には、沢山の魅力的な資源があります。

私たちは、この資源を活かし、一緒になって未来の幸せを実現するための8つのストーリーを考えました。

連携の実践的取組の企画・8つのストーリーをテストプロジェクトとして検討・実施

「つくってみた！」15市町村が連携

目的

その地域の魅力を高め、その地域に興味をもってもらう

内容

ワーキング関係者で試験的にレシピ開発

開発したレシピを料理レシピサービスウェブサイト「cookpad」に掲載

URL:<http://cookpad.com/kitchen/14170679>



「名古屋の観光名所をジャックせよ！」12市町村が連携

目的

効果的に圏域の魅力を高める

内容

人が多く集まる場所でPR

複数のご当地キャラが連携してPR

- ・名古屋市役所食堂
- ・東山動植物園
- ・名古屋城



「知多半島のみりよくはっけんはっしんプロジェクト」19市町村が連携

目的

連携して地域の魅力を掘り起こし効果的にPR

ノウハウを共有し、各自治体で活用

内容

地域の魅力的なスポットを調査・収集

写真、位置情報、紹介コメントなどをデータベースとして整理

スマートフォンアプリ

「まちクエスト」に72箇所を掲載

